



【夏の猛暑に要注意！】高速道路で多発するタイヤバーストの原因と予防策

【記事の要点3つ】

- ☑ 夏場の高速道路ではタイヤバースト事故が多発し、主な原因は高温・空気圧異常・タイヤの劣化や損傷である。
- ☑ バーストの前兆として「膨らみ」「ひび割れ」「異音」などがあり、発生時は急ブレーキを避けて安全に停車することが重要。
- ☑ 日常点検や TPMS(タイヤ空気圧モニタリングシステム)、点検アプリの活用でバーストの予防と早期発見を徹底することが安全確保のカギとなる。

夏の猛暑下、高速道路でタイヤバースト事故が多発しており、その主な原因は路面温度の上昇によるタイヤ内部圧の増加、空気圧の管理不備、経年劣化や損傷です。特に夏場はバーストのリスクが高まるため、空気圧やタイヤの溝・ゴム状態の事前点検が不可欠です。タイヤバーストの前兆としては、側面の膨らみや深いひび割れ、異音やハンドルの違和感などが挙げられ、これらを発見した際は速やかに運転を中止し、専門店での点検が必要です。

万が一走行中にバーストした場合は、急ブレーキや急ハンドルを避け、落ち着いてハザードを出しながら安全な場所へ停車し、ロードサービスに連絡することが事故の拡大防止に重要です。また、バーストしたタイヤは修理ができず、必ず新品交換が必要であり、コスト面でも大きな損失となります。

予防策としては、TPMS(タイヤ空気圧モニタリングシステム)や日常点検アプリの活用が有効です。これにより異常を早期発見し、事故リスクを大きく減らすことができます。月1回の空気圧チェック、タイヤ交換目安の把握、点検記録のデジタル管理を徹底することで、安全かつ無事故の輸送を目指しましょう。

元の記事を読む



株式会社タイガー
東京都千代田区神田猿楽町 2-1-14 A&Xビル 2F
<https://www.tiger-inc.co.jp/>
03-5283-7232

物流ソリューションエキスパート

